

(12) 非常勤講師等

非常勤講師

ア 大学院学校教育研究科

| 授業科目名 | 時間数 |
|------------------------------|-----|
| 学習場面臨床学特論 | 15 |
| 学習臨床カウンセリング (学習臨床カウンセリング) | 15 |
| 情報教育カリキュラム特論 | 30 |
| 教育課程行政特論 | 30 |
| 学校教育相談特論 | 30 |
| 精神医学特論 | 30 |
| 学校実験計画法 | 30 |
| 学校多変量解析法 | 30 |
| 障害児病理学論A | 30 |
| 障害児病理学論B | 30 |
| 特別支援教育論 | 6 |
| 漢文学特論 | 30 |
| 国語学演習A | 30 |
| 政治学特論 | 30 |
| 理科野外観察指導実習I | 15 |
| 物理学特論 | 15 |
| 理科教育学特論 | 15 |
| 「生命・地球」特論B | 15 |
| 音楽における心理と発達 | 15 |
| 工芸・デザイン論 | 15 |
| 複合造形研究 | 30 |
| 保健体育科教育内容・指導論 | 30 |
| スポーツ学特論B | 30 |
| 住居学特論 | 30 |
| 住居学演習 | 30 |

イ 学校教育学部

| 授業科目名 | 時間数 |
|-------------|-------|
| 文化体験演習 | 15 |
| 情報社会論 | 30 |
| 教育方法学 | 30 |
| 学校教育相談基礎演習 | 30 |
| 現代子ども論 | 30 |
| 心理統計解析 | 30 |
| 漢文学講読 | 30 |
| 初等国語科指導法 | 10 |
| 考古学認識論 | 30 |
| 合奏B | 15 |
| 合奏C | 15 |
| 独唱 | 30 |
| 音楽劇創作 | 15 |
| 工芸特講 | 15 |
| 体育社会学 | 30 |
| 情報基礎(実習を含む) | 30 |
| 栽培学概論 | 15 |
| 住居学(製図を含む) | 30 |
| 博物館経営・情報論 | 30 |
| 社会教育計画A | 30 |
| 社会教育計画B | 30 |
| 社会教育演習 | 30×2人 |
| 社会教育演習 | 30×2人 |

教員養成実地指導講師

ア 教職に関する科目（教育実習の事前及び事後指導に関するものは除く）

| 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 年間授業時間数 |
|------------------------|--|---------|
| 人間教育学セミナー（教職の意義） | 教育実践の視点からの教職の意義 | 10 |
| 初等国語科指導法 | 小学校の国語科教材の見方・扱い方について実践的な立場から説述する。 | 6 |
| 算数科指導法 | 算数的活動を中心に据えた算数の指導と評価の実際 | 12 |
| 図画工作科指導法 | 小学校教育養成（図画工作） | 8 |
| 初等音楽科指導法 | 小学校音楽科における「歌唱」分野の授業の実践 | 4 |
| 初等音楽科指導法 | 小学校音楽科における「器楽」分野の授業の実践 | 4 |
| 初等音楽科指導法 | 小学校音楽科における「音楽をつかって表現する」内容の授業の実践 | 4 |
| 初等体育科指導法 | 小学校体育科における「体育」分野の授業の実践 | 2 |
| 初等家庭科指導法 | 小学校家庭科の実際と理想、今後の在り方について、現場教師の立場で指導する。 | 4 |
| 初等家庭科指導法 | 小学校家庭科における「いのち教育」の実践的指導例を講義する。 | 4 |
| 初等家庭科指導法 | 小学校家庭科における「いのち教育」について、医療現場からの視点で講義する。 | 4 |
| 中等国語科指導法（課程論） | 中学校の国語科授業におけるカリキュラム開発について実践的な立場から説述する。 | 4 |
| 中等国語科指導法（授業論） | 中学校の国語科授業における授業計画の立て方について、実践的な立場から説述する。 | 4 |
| 数学教材開発論 | 子どもの学習過程の特性と数学内容の特性の双方を視野に入れた学習活動系列の開発について考察する。 | 8 |
| 中等音楽科指導法（実践応用編） | 学校教育現場における中学校音楽科の授業の実際 | 4 |
| 中等音楽科指導法（本質論） | 中学校音楽科における「表現」領域の授業の実践 | 4 |
| 中等美術科指導法（過程論） | 中学校教員養成（美術） | 6 |
| 中等美術科指導法（教材論） | 中学校教員養成（美術） | 6 |
| 中等家庭科指導法（教材論） | 家庭科における情報教育の在り方と強化におけるPCを利用した教材の作成方法を指導する。 | 6 |
| 中等技術科指導法（課程論） | 技術科のカリキュラム開発と実践 | 4 |
| 中等技術科指導法（課程論） | 技術科カリキュラムの構成と実践（特に情報技術とコンピュータ） | 2 |
| 中等技術科指導法（基礎論） | 技術科教材研究の実践に関する基礎論 | 4 |
| 中等技術科指導法（基礎論） | 技術科授業の構成と実践（特に情報技術とコンピュータ）に関する基礎論 | 2 |
| 教育工学 | 教育の目的に応じた学習を成立させるためのコミュニケーションを支援する環境や方略、メディア等の理論と実践に関わる教師としての基礎的力量的の育成を図る。 | 10 |
| 障害児教育概論 | 特別支援教育の理念と実際についての基礎的事項及び介護体験の理念と体験実施学校・施設の現状について理解を深める。 | 10 |
| 障害児教育概論（介護体験事前・事後指導含む） | 特別支援教育の理念と実際についての基礎的事項及び介護体験の理念と体験実施学校・施設の現状について理解を深める。 | 2 |
| 生活科指導法 | 生活科及び総合的学習について、教育実習に必要な知識・技能を提供する。 | 24 |
| 中等国語科指導法（授業論） | 中学校の国語科授業における授業計画の立て方について、実践的な立場から説述する。 | 2 |
| 中等英語科指導法（授業論） | 中学校の英語科授業における授業計画の立て方及び実践について学ぶ。 | 6 |
| 数学科指導法 | 問題解決の立場に立つ数学の授業構成と展開の実際 | 6 |
| 数学科指導法 | 「数学的活動」を中心に据えた数学の指導と評価の実際 | 6 |
| 中等音楽科指導法（本質論） | 中学校音楽科における「鑑賞」領域の授業の実践 | 4 |
| 中等家庭科指導法（授業論） | 中学校家庭科における授業の実際について講義する。 | 2 |
| 中等家庭科指導法（教材論） | 中学校家庭科における教材に関する具体的指導実践例について講義する。 | 4 |
| 中等技術科指導法（基礎論） | 技術科授業の構成と実践（特に技術とものづくり）に関する基礎論 | 4 |
| 中等技術科指導法（課程論） | 技術科のカリキュラム開発と実践（特に技術とものづくり） | 4 |

イ 教科に関する科目

| 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 年間授業時間数 |
|-------------|--|---------|
| 実践セミナー 「美術」 | 小学校教員養成（図画工作） | 4 |
| 実践セミナー 「幼児」 | 実践場面を分析するのに必要な現場知識の提供（幼稚園場面） | 4 |
| 学習指導と学校図書館 | 学校図書館の活用及びその指導内容・方法について，実践的な立場から説述する。 | 12 |
| 総合・生活 | 生活科教育実践についての基礎的な知識を提供する。 | 8 |
| 家庭 | 初等教育の家庭科における食生活，衣生活，住生活の指導に必要な基礎的事項について講述する。 | 2 |
| 総合学習と生活科 | 小学校における生活科と総合学習の具体的な展開。 | 10 |
| 生活科体験演習 | 生活科の学校現場における実際の姿を理論・実践の双方から学習し，生活科についての理解を深める。 | 10 |
| 学習場面観察基礎 | 子どもの学びの場面に実際に臨みながら，その成り立ちと過程を観察し，子どもの学びの理論をとらえるための基礎的な実習を行う。 | 2 |
| 学習場面観察基礎 | 子どもたちの学びの場面に実際に臨みながら，その成り立ちと過程を観察する。 | 8 |

ウ 教育実習の事前及び事後指導に関する科目

| 授業科目名 | 授業の趣旨・概要 | 年間授業時間数 |
|----------------|--|---------|
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、学習指導上不可欠な基礎的能を10グループに分けてグループ単位で実践に習得させる。板書指導とその構造化の指導を担当する。 | 20 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 3年次における教育実習の事前指導として小学校の授業場面における情報メディアの活用の在り方と具体的方法を理解させる。 | 40 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、授業の構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、音楽の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、体育の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、図画工作の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、国語の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、社会科の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、算数の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、理科の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、生活科の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 教育実地研究（授業基礎研究） | 教育実習に向けて、道徳の授業構想とそれに基づく学習指導案の作成指導を行う。 | 3 |
| 中学校教育実習事後指導 | 実習における評価とこれからの卒業までの課題についての講話。 | 2 |
| 保育実習 | 保育所保育および児童福祉施設・知的障害者援護施設における保育技術、養護技術を習得し、保育者として実践に参加できる基礎的な資質を養う。 | 8 |

ティーチング・アシスタント

修士課程学生

| 授 業 科 目 名 | 担当教員 | 学期 | 曜日 時限 | 任用時間数 |
|-----------------|----------------|-----|----------|---------|
| 教育情報演習A1～A3 | 井上 | 通年 | 木 1 | 60 時間 |
| 教育情報演習B1～B3 | 大森 | 通年 | 金 4 | 60 時間 |
| 教育情報演習A4・C1～3 | 中野 | 通年 | 月 4 | 59 時間 |
| 教育情報演習D1～3 | 石川 | 通年 | 月 2 | 60 時間 |
| 教育情報演習B4・C4・D4 | 高野 | 通年 | 金 3 | 60 時間 |
| 体験学習 D | 西山・室谷 定本 | 不定期 | 土 | 30 時間 |
| 体験学習 E | 榊原 | 不定期 | 木 2 | 14 時間 |
| 体験学習 F | 高石 | 不定期 | 土 | 30 時間 |
| 体験学習 G | 立屋敷 光永・藤木 | 不定期 | 土 | 27 時間 |
| 体験学習 H | 天野・大場 | 不定期 | 土 | 30 時間 |
| 体験学習 I | 後藤他 | 不定期 | 土 | 4 時間 |
| | | | | 6 時間 |
| スポーツ実践 A | 長澤・清水 榊原・土田 | 前 | 水 2 | 23 時間 |
| スポーツ実践 B | 長澤・清水 榊原・土田 | 前 | 金 2 | 30 時間 |
| スポーツ実践 C | 長澤・清水 榊原・土田 | 前 | 火 2 | 20 時間 |
| スポーツ実践 D | 長澤・清水 榊原・土田 | 前 | 木 2 | 20 時間 |
| マリンスポーツ | 長澤他 | 前 | 集中 | 30 時間 |
| 表現・相互行為教育演習 | 加藤・松本 阿部 | 前 | 火 1 | 30 時間 |
| 音楽 | 山本他 | 通年 | 木 3 | 14 時間 |
| | | | | 16 時間 |
| 図画工作 A | 山ノ下他 | 前 | 金 3 | 30 時間 |
| 図画工作 B | 山ノ下他 | 前 | 木 1 | 30 時間 |
| 図画工作 C | 山ノ下他 | 前 | 火 3 | 30 時間 |
| 図画工作 D | 山ノ下他 | 前 | 金 5 | 30 時間 |
| コミュニケーション英語C1 | 若山 | 前 | 月 2 | 30 時間 |
| 中国語・中国事情 | 黎 | 前 | 月 1 | 30 時間 |
| 表現・<子ども>の活動 A B | 西村他 | 前 | 金 1～2 | 30 時間 |
| 表現・<子ども>の活動 C D | 西村他 | 前 | 金 1～2 | 30 時間 |
| 算数科指導法 A B | 高橋等 中村光 | 前 | 木 2 | 15 時間 |
| 算数科指導法 C D | 高橋等 中村光 | 前 | 火 2 | 15 時間 |
| 初等家庭科指導法 A B | 滝山・得丸 | 前 | 火 1 | 14.5 時間 |
| 初等家庭科指導法 C D | 滝山・得丸 | 前 | 火 2 | 15.5 時間 |
| 心理学実験 | 中山・内藤 越 | 前 | 木 3・4 | 30 時間 |

| 授 業 科 目 名 | 担当教員 | 学期 | 曜日 時限 | 任用時間数 |
|---------------|----------------|----|----------------|-------|
| 地理学野外実験 | 赤羽・佐藤 | 前 | 集中 | 30 時間 |
| 造形基礎 B D | 西村・高石 松尾 | 前 | 月 4 | 30 時間 |
| 指揮法 | 山本 | 前 | 木 5 | 18 時間 |
| 地域調査法 C | 安田 | 通年 | 集中 | 0 時間 |
| | | | | 30 時間 |
| 書写書道 | 押木 | 前 | 月 3 | 22 時間 |
| 数学基礎演習 | 黒木 | 前 | 火 3 | 30 時間 |
| 食科学実験 B | 立屋敷 | 前 | 月 4・5 | 33 時間 |
| 野外運動 B | 清水 | 前 | 集中 | 30 時間 |
| 地学実験 | 中川清 大場・天野 | 前 | 月 4・5 | 30 時間 |
| 食科学セミナー | 立屋敷 光永 | 通年 | 月 3 | 30 時間 |
| 保育学実習 | 大瀧 | 通年 | 集中 | 30 時間 |
| 保育学セミナー | 大瀧 | 通年 | 前/月 3 後/月 4 | 30 時間 |
| スノースポーツ | 長澤・加藤 清水・榊原 | 後 | 集中 | 30 時間 |
| コミュニケーション英語 B | 野地 | 後 | 木 2 | 30 時間 |
| 表現・状況的教育方法演習 | 高石・小川 昌・大庭孝 | 後 | 木 1 | 30 時間 |
| 保育・音楽表現の指導法 | 大山 | 後 | 火 3 | 30 時間 |
| 保育・造形表現の指導法 | 松本(健) | 後 | 火 2 | 30 時間 |
| 化学実験 | 森川・高津 戸・下村 | 後 | 火 4・5 | 30 時間 |
| 計算機数学演習 | 中川仁 | 後 | 木 4 | 30 時間 |
| 調理の理論と実習 | 立屋敷 | 後 | 火 3～5 | 30 時間 |
| 機械工学実習 | 黎 | 後 | 木 4 | 30 時間 |
| 書写書道 | 押木 | 後 | 月 2 | 29 時間 |
| 野外運動 A | 市川 | 後 | 金 2 | 30 時間 |
| 総合造形表現 | 西村・高石 | 後 | 月 4 | 30 時間 |
| 伝統的絵画表現と鑑賞 | 増谷他 | 後 | 木 2 | 30 時間 |
| 生物学実験 | 小川茂 | 後 | 木 4・5 | 30 時間 |
| 木材機械加工法 | 平田 | 後 | 金 4 | 30 時間 |
| 物理学実験 | 西山・室谷 定本 | 後 | 月 3・4 | 30 時間 |

博士課程学生

| 授 業 科 目 名 | 担当教員 | 学期 | 曜日 時限 | 任用時間数 |
|----------------------|------|----|----------|-------|
| 発達臨床研究セミナー | 西 | 通年 | 月 1 | 71 時間 |
| 生徒指導の制度・経営研究 セミナー | 西 | 通年 | 水 2 | 71 時間 |
| 障害児心理・生理検査法 B | 星名 | 前期 | 金 3・4 | 35 時間 |
| 障害児研究法演習 B | 星名 | 後期 | 金 3・4 | 35 時間 |
| 数学基礎演習 | 黒木 | 前期 | 火 4 | 35 時間 |
| 代数学演習 | 黒木 | 後期 | 水 1 | 35 時間 |
| 工芸表現 A | 西村 | 通年 | 木 4 | 71 時間 |
| 木工芸研究 | 西村 | 前期 | 木 1・2 | 71 時間 |
| メディアデザイン研究 | 西村 | 後期 | 月 1・2 | 71 時間 |
| 技術科教育教材開発演習 | 山崎 | 前期 | 金 2 | 35 時間 |
| 総合学習基礎研究セミナー | 山崎 | 前期 | 木 3 | 35 時間 |
| 総合学習応用研究セミナー | 山崎 | 後期 | 木 3 | 35 時間 |

リサーチ・アシスタント

(上越教育大学大学院学校教育研究科分)

| 任用期間 | 研究補助業務担当時間数 | 研究プロジェクト等名 | 左の中心的組織名 | 研究プロジェクト代表者 |
|-------------|-------------|--|----------|-------------|
| 6月 1日～3月31日 | 400時間 | 技術科の評価基準の開発とカリキュラム評価 | 学校教育研究科 | 山崎 貞登 教授 |
| 6月 1日～3月31日 | 400時間 | 相互コミュニケーション科目「表現」の教育内容及び方法の開発と教育実践の理論の構築に関する研究 | 学校教育研究科 | 西村 俊夫 教授 |
| 6月 1日～3月31日 | 400時間 | 教師の職能発達における自己認識の変容過程に関する事例研究 | 学校教育研究科 | 西 穰 司 教授 |
| 6月 1日～3月31日 | 400時間 | 発達障害児を有する家族のQOL向上を目的とする積極的行動支援に関する研究 | 学校教育研究科 | 藤原 義博 教授 |

(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科分)

| 任用期間 | 研究補助業務担当時間数 | 研究プロジェクト等名 | 左の中心組織名 | 研究プロジェクト代表者 |
|-------------|-------------|---------------------|------------|-------------|
| 6月 1日～3月31日 | 391時間 | 聴覚障害児の音楽受容に関する実験的検討 | 連合学校教育学研究科 | 星名 信昭 教授 |